

# 週報 みえぎよれん

—浜に身近な話題をお届けする関係者向けミニ情報誌—

編集・発行

JF 三重漁連指導部

TEL:059-228-1205

FAX:059-225-4511

本紙は三重漁連ホームページ (<http://www.miegyoren.or.jp/>) での閲覧を推奨します (PDF ファイル)。

## 平成27年度おさかな料理コンクール —9/17(木)アスト津にて—



9月17日(木)アスト津にて、平成27年度おさかな料理コンクールが開催されました。

三重県水産物消費拡大促進協議会(清水清三会長)が主催する同コンクールは、三重県産の魚・貝・海藻類を主材料とした新しい料理の創作と、そのレシピの普及を目的として毎年開催しているもので、今年度は【プロを目指す学生部門】では「家族で楽しむお魚料理」、【お魚料理チャレンジ部門】では「フライパンひとつで簡単お魚料理」をテーマとして募集をし、三重県各地から174品のレシピが集まり、その中から12品(全て高校生の作品)が一次選考を通過し、17日の実技審査へと進みました。

開会式では、同協議会の阪副会長が、「若い皆さんの発想力とパワーで、たくさんのレシピを考案してもらい、魚食の

輪を広げてほしい」とあいさつし、出場者は「練習してきたことが発揮できるように、精一杯頑張りたい。」など意気込みを語っていました。

鳥居久雄審査員長(名古屋文化短期大学教授)の開始の合図とともに実技審査が始まり、制限時間は【お魚料理チャレンジ部門】が30分、【プロを目指す学生部門】が50分と短い時間中で、出場者は真剣な面持ちで料理を完成させました。調理終了後、出場者は緊張が解けたのか笑顔がこぼれ、にぎやかな雰囲気では他の出場者の作品を見てまわりました。

厳選なる審査の結果、最優秀賞の三重県知事賞には、【プロを目指す学生部門】では相可高校2年生の太田直央さんの「鯛のミルフィーユ寿司～アジのムース～」が、【お魚料理チャレンジ部門】では亀山高校3年佐野光さんの「鯛のミルフィーユ仕立て～トマトとマスタードの2色ソース」が選ばれ、賞品として9月17日に漁が解禁したばかりの(鳥羽地区のみ)伊勢海老が贈られました。

閉会の挨拶では、県農林水産部の藤吉利彦次長より、「どの作品もレベルが高く審査が難しかった。伊勢志摩サミットでも、皆さんの力をお借りしたい。」と、伊勢志摩サミットに向けて県内水産物のPRに努めていくことを述べました。

知事賞に輝いた出場者は、全国シーフ

ード料理コンクールへ推薦され、そこでの予選に勝ち残れば12月5日(土)の本選に出場できるとのこと。鳥居審査員長からのアドバイスを受け、受賞者は「今日の反省点を振り返り、全国でも頑張りたい。」意欲を覗かせました。



三重県知事賞  
【プロを目指す学生部門】  
相可高校2年生 太田直央さん

三重県知事賞  
【おさかな料理チャレンジ部門】  
亀山高校3年 佐野光さん



**受賞作品**

☆三重県知事賞  
【プロを目指す学生部門】  
相可高校2年生 太田直央さん  
「鯛のミルフィーユ寿司〜アジのムース〜」  
【おさかな料理チャレンジ部門】  
亀山高校3年 佐野光さん  
「鯛のミルフィーユ仕立て  
〜トマトとマスタードの2色ソース〜」

☆三重県水産物消費拡大促進協議会長賞  
【プロを目指す学生部門】  
相可高校3年 濱口風太さん  
「鯛の変わり揚げと文銭蛸の甘酢餡かけ  
〜酢豚仕立て〜」  
【おさかな料理チャレンジ部門】  
四日市農芸高校3年 片岡美友さん  
「イワシの梅しそ巻きあんかけ」

☆審査員特別賞  
白子高校3年 木村琴乃さん  
「さばの全粒粉ガレット」

☆アイデア賞  
相可高校3年 中西将浩さん  
「めで鯛! オペラ」

☆10月初旬頃、三重漁連HPにて、本大会のレシピを公開しますので、是非チェックしてください♪

**鳥羽地区漁協女性部連絡協議会  
平成27年度研修会  
-9/12(土)鳥羽市にて-**

9月12日(土)に鳥羽市・戸田家にて、鳥羽地区漁協女性部連絡協議会の平成27年度研修会が開催されました。

鳥羽地区漁協女性部連絡協議会は漁村女性の文化向上や、漁業協同組合と連携して、漁村生産力の増強、生活の改善、漁家貯蓄の推進に努め、例年、視察や研修会を行っています。

開会の挨拶では、三重県漁協女性部連合会の小寺会長より「今年度からは県内の各地区で研修を開催し、より一層活動を活発に繰り広げていきたい。」と意気込みを語りました。

続いて、エスケー石鹸(株)の鈴木浩二氏より「わかしお石けんは海をまもる」と題した講演が行われ、せっけんと合成洗剤の違いを説明し、人と環境にやさしい石けん「わかしお」を実際に使用して、洗濯のコツや、台所用品の掃除のコツ、さらにはシャンプー等の商品の紹介も行われました。

午後からは、海と漁の体験研究所代表の大浦佳代氏より「農村よりスゴイ!? 漁村の魅力-ブルーツーリズムの事例から-」と題した講演とワークショップが行われ、ブルーツーリズムの事例を通じて漁村の魅力を再発見する機会となりました。

ワークショップ  
「女子会本音トーク」



本文の無断転載・転用等は固くお断りします。